

天将星

青春期の不安定も、壮年期の保守性も通用しない悠々とした自信と自負が満ちあふれ、何事にも動じない重厚さを持つ頭領(とうりょう)の器(うつわ)たらんとする、まさに帝王の時代です。

去る者を嫌い、来るものを好むとされ、頭領の器は安穩(あんのん)を嫌い、つねに大衆をわが手中に収めようとするのです。内側が平和であれば外側に動乱を求め、外側が平和であれば内側で傲慢(ごうまん)さを発揮し、まわりを震撼(しんかん)せしむるのです。それが天禄星の世界なのです。

また天将星世界に生を受けたものは、幼年より親縁うすく、兄妹縁うすく、それこそ金縁うすく、家庭運うすく…という環境のなかでこそ、中年期ころより上昇運の流れに乗って、はじめて王座を得ることができ、自分の信念と理念のもとに庶民を率いて新しい世界を作り上げることが可能なのです。いわゆる中庸を得る事が出来ないのが、この天将星の定めかも知れません。

天将星が与えられたライセンスは自分の理念と信念を打ちだし、万民を率いて新しい人間世界を開く事だけです。

また天将星世界は、初代の質とされ人の後を継ぐという天命はありません、はるかに続く荒野に向かって新しい道標を立てていく人なのです。そのため、この世界には、創始者・初代の帝王…などの意味が付されているのです。

「人の高みに登ったものは、孤独の罰を受ける」の言葉通り、効成れば成るほど、孤独になっていく世界なのです。

ただ悲しい事に、内側のエネルギーを常に発揮していなければ安住が保てないのです。

皇帝は死に至るまで、その役目に徹するものなのであります。

■**初年運**(人体星図の肩のところに割り出された星で、この位置を算命術では「初元」の場所と言っています。)

生れてから成人に達するまでの初年運をみます。主として子供の頃に現れる性格や希望が現われますが、この星は青年になる迄のものの考え方や性格づけが発揮されるとともに、本人一生の性格として持ち続けられる星でもあるのです。三つ子の魂、百まで…のたとえで子供のころの性格は大人になっても消えるものではありません。

●人体星図に天報星が二つ以上出ている人は、

■**中年運**(人体星図の左足の位置に割り出された星で、この位置を算命術では「中元」の場所と言っています。)

青年期から壮年期にかけての運勢を算定します。人生のアイデンティティ(役目意識)はここに算出された星から生れます。また職業意識や社会観なども、この星から生まれると云っても過言ではないでしょう。

■**晩年運**(人体星図の右足の位置に割り出された星です。)

晩年期の運勢を算定します。人生の究極においてどのような人間性と悟りが持てるかをこの星で量ります。算命術では、この位置を「本元」とも言いますが、それは人生を生き抜いて来た社会に対する役目や価値を見つけ出す大切な場所という意味からです。